



あづま くみ
我妻 公美 さん

我妻公美さんは、多世代がつながる場所づくりを行うボランティア団体「TAMARIBA」の代表。市内各地でコンサートを主催し、こどもから高齢者まで幅広い世代の人々が音楽を通じて交流できる場をつくっています。

新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、高齢者の外出は減少。健康状態や孤立への影響が危惧されていることを知った我妻さんは、友人と高齢者のコミュニティづくりボランティアを始めます。取り組みを進める中で、子育て中の親子などにも同様の影響が及んでいることを体感し「みんなが外に出て、世代間交流ができる場を」と、2年前に「TAMARIBA」の活動をスタートさせました。

「聞いている人も、やっている私たちも、楽しいことが一番」と話す我妻さん。コンサートを重ねるたびに、つながりの輪を広げています。昨秋に開催した談山神社でのコンサートでは、紅葉のライトアップで彩られた中での演奏に予想以上の観客が足を止め、聞き入ってもらえたことがうれしい思い出に。コンサートで多くの笑顔を見られることが、やりがいになっているといいます。

今後の目標を「いつかは市内の多くの人や団体とつながって、いろいろなイベントをやりたい」と話す我妻さんの言葉には、未来を見据える熱意が感じられました。

共に生きる

「人権を守ること」と「人を尊重すること」

「人権」という言葉は少し難しく聞こえるかもしれません。しかし「誰もが自分らしく、幸せに生きるための権利」と考えると、身近に感じられるのではないのでしょうか。「人を尊重すること」と「人権を守ること」は、私たちの毎日の生活と深くつながっています。

人権を守るための第一歩は、身近な人を尊重することです。例えば、学校や職場で自分とは違う意見に出会ったとき、すぐに否定するのではなく「そういう考えもあるんだ」と最後まで聞くこと。それだけでも、相手が安心して自分の気持ちを話せるようになります。友達が気にしていることを勝手に周りに話さないといった配慮も、相手のプ

ライバシーや心を守ることにつながります。また、違う国の人や異なる習慣を持つ人との違いを認め、理解しようとすることも大切です。

人を尊重することは「自分がされたら嫌なことはしない」「相手の気持ちを大切にすること」といった、日々の小さな思いやりの積み重ねです。特別なことをする必要はありません。一人一人が目の前の人を大切にできる優しい気持ちが、全ての人の人権を守る大きな土台になります。

誰もが笑顔で自分らしく生きることができる社会にするために、まずは私たちの周りにいる大切な人を尊重することから始めてみませんか。

